

3月11日に起きた東日本大震災。多くの爪あとを残した先の震災は、数ヶ月経とうとしている今もまだ、大きな影を落としている。被害の大きかった東日本の地方に住まわずとも、私たちはその影響の大きさを日々感じているだろう。

節電に宅配物の発送の遅れや家具の耐震補強・・・そんな日常生活への影響を思い浮かべた方も多いただろうが、私たちは大切なことを見落としている気がする。今生活している大都市は、無縁社会と呼ばれている側面があることを。

テレビ画面に映る無縁社会像は、身寄りのない年配の方、ホームレス・・・私たち女子大生にはなんら関係のないような、どこか他人事のように映っていた。福祉がどうのこうの、少子高齢化がどうのこうの、聞き飽きたように聞こえるこの話題も、実はまったく無縁ではなかったのだ。

私たちが生きる社会、とりわけ大都会は利便性と引き換えにどこかなつかしい人との関係が希薄になってきてしまった、というのは皆さんも当にご存知だと思われる。特に一人暮らしをしている学生なら、隣に誰が住んでいるかさえも知らないし、限定された自らが選んだコミュニティ内での人間関係で人との関わりを完結させている人も多いただろう。最後に親戚ら親族一同にあった日のことを思い出してほしい。残念ながら私は思い出せない。都市に出て新しい出会いはあったものの、血縁や地縁、育ちながらにもともと育んできた絆はここ数年で一気に薄れた。

かという地方も地方で、何も問題がないわけではない。地方の地域共同体もその絆やつながりが強みだったが、若者の地方離れが続き、人材や財源どころか築きあげてきた‘まち’が消滅しようとしている。次の担い手がない限り、そのまちの歴史は終わってしまう可能性もある。それは同時にその地方にあった特色やノウハウもコミュニティも、幕を閉じようとしているということだ。

近代の個人主義やプライバシーの過剰な保護、合理主義化の中で、出生率の低下、治安の悪化・・・新たな問題が多様性を含み生まれてきた。出生率や若者の結婚への関心の低迷は、女性の社会進出に追いつかない産休へのサポート制度や、子供を巡るいじめなどの問題など、様々な社会問題が複雑に絡み合っている。合理的になったはずなのに、複雑な問題が解決されないまま社会のしわ寄せとなりおざなりになっている。このしわ寄せは無縁社会の中心人物、弱者をじりじりと追い詰めている。原因は積み重なった、このしわだ。私たちも最初はこのしわが身の回りであったとしても気付かないだろうが、誰でもこのしわ寄せに躓く可能性があるということを忘れてはならない。それほど身近な問題だということを実感すべきであろう。災害が起きたときに、一番に影響を受けるのは弱者だ。と、阪神大震災経験者の方は語っていた。

もし、被災して。携帯電話も使えず、家族や知り合いが負傷して。自分がひとりぼっ

ちになったら。いざとなったら助け合える、社会が、政府がと期待することもあるだろうが先の震災の報道を見て、期待はしすぎるものでない、自分たちの力で立ち上がらなければならないということに気付かされたのは私だけではないと思う。しかしそのとき、自分‘たち’とは誰のことを言っているのだろうか。見知らぬ人の集合体の中、私たちは最小単位のコミュニティ内で生きてきたことを実感するだろう。

共同体の重要性に気付かされた今回の大震災。岩手県のある地域で、ずっと守られてきたコミュニティの組織制度があるそうだ。社会の情勢や自然災害で被害をこうむった際に、地域で助け合える備えを作るという古くからある組織制度である。こういった制度や地域での先の経験を後世に継ぐ語り合いは地域に地縁という絆を育んできた。この大震災の被害の大きさではその制度は機能しなかったというが、絆がコミュニティ、地域の明日をつないでいくことに変わりはないとこの地域の人々は語る。互助精神の伝統で、‘人任せ’にしないまちづくりをとも語っていた。今後の復興計画で政府が再建に介入するとこのコミュニティが崩れてしまう恐れも考えられたが、これこそ震災復興は自分‘たち’の手で立ち上がることに意味があるのだと感じられたエピソードだった。絆とは目に見えないものだが、確実にそこにあり誰にも奪えないものである。これこそは有縁社会であり、震災を乗り越えられる‘絆’の理想の形なのかもしれない。

もしも大都市を大震災が襲ったら。社会機能が麻痺し、当たり前が当たり前ではなくなることはもちろん、無縁社会の問題がそのまま自分自身に降りかかることもありえない。皮肉にも震災という形ではあるが、絆が崩壊しつつある日本で絆とは何かを今一度確かめるチャンスがきた。それは家族同士となのか、地域の人同士となのかもわからないが、人とのつながりは誰にも奪えない財産だということは確かである。人とのつながりは無限であると同時に世間は狭いと感じることもあるだろう。誰かにつながれば、どこかの誰かにもつながる。私たちは誰もがひとりぼっちにならない、有縁社会を作ることができるということを忘れてはならないだろう。